



国民の森林・国有林

## 森林・林業の技術交流発表大会を開催

10月28日、九州森林管理局で「令和2年度 森林・林業の技術交流発表大会」を開催しました。

この発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換

を行うことにより、森林・林業の活性化を図ることを目的に開催しているもので、今年度で26回目となります。

今年度は新型コロナウイルス感染症の現在の状況を踏まえ、感染予防と感染拡大防止のためWEB会議システムを利用しての開催。動画による



### WEB会議システムを利用した発表会の様子

発表と発表者をオンライン接続しての質疑応答を行いました。開会には、同協議会を代表し九州林政連絡協議会会長小島孝文より、今年発生した豪雨災害で被災

された方々へのお見舞いや復旧対応、最近の森林・林業の情勢に続き、「持続可能な開発目標(SDGs)」や、温室効果ガスの排出をゼロとし脱炭素社会を目指す取組についての社会の関心は高く、今後森林や林業への期待が一層高まることになる。新しい社会の要請や変化に対応するためには、新しい知見や、それを担う人材の育成が大事であり、本大会が九州の森林・林業の発展に有意義な大会となることを祈念する」と挨拶。その後、「森林技術部門」と「森林保全部門・森林ふれあい部門・高校生部」の2会場に分かれ、一般部19課題、高校生部4課題(佐賀県1校、熊本県3校)、計23課題の発表を行いました。

最後に審査委員長の(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所長陣川雅樹所長より「今年度は、新型コロナウイルス感染症に対応するた



別室での傍聴の様子



開会挨拶をする小島九州林政連絡協議会会長



総評をする審査委員長陣川氏

め、WEBや動画を使用した方法となった。やり直しがきかないという緊張感を経験出来ないことは残念だが、動画を上手に作成しており感心した。これからも、言いたいこと、やりたいこと等、人に伝える技術ついて工夫を重ね、森林・林業の課題にチャレンジして欲しい」旨の総評がありました。発表課題毎に講評後、一般の部の九州林政連絡協議会会長賞（最優秀賞2課題、優秀賞4課題）及び高校生部の九州森林管理局長賞（最優秀賞1校、優秀賞1校）の発表があり、今年度の発表大会を終りました。

**（担当）技術普及課**

**23課題の中から評価の高かった一般の部6課題・高校生の部2課題を表彰**

令和2年度森林・林業の技術交流発表大会において、受賞された課題と発表者は次のとおりです。

**【一般の部】**

九州林政連絡協議会会長賞

最優秀賞（2課題）

◇林業事業体・自伐林家による苗木生産に向けた取り組み支援について  
熊本県 県北広域本部

田中 万喜子

◇「西表樹木かるた」を用いた森林環境教育の普及啓発について  
西表森林生態系保全センター

後藤 直哉  
永山 博美

優秀賞（4課題）

◇耐陰性スギの無下刈り試験地におけるフローアアップ調査について  
森林技術・支援センター

山形 良平  
釜 稔

◇国有林を活用した南那珂森林組合による低コスト造林等の実証実験について

宮崎南部森林管理署

小中原 真

南那珂森林組合

清水 賢次

◇安定的なメープルシロップ生産に向けた力エデ類選木方法の確立  
宮崎北部森林管理署

藻川 瑞穂

柘田 明莉

◇低コスト芝生シートの作成とその活用  
沖縄森林管理署

石綿 深志

小崎 凌平

丸橋 宗寿

九州森林管理局長賞

最優秀賞（1課題）

◇「もっと」木育！地域資源を活用した、木材の利用促進と伝統文化の継承を目指した実践  
熊本県立南陵高等学校

黒肥地 昂志

星原 汐苑

山口 薫翔

吉田 大貴

長岡 光龍  
木村 賢星  
久保山 隼人  
松崎 宗太  
星原 幸生  
松村 歩武

優秀賞（1課題）

◇林業技術を生かした乙千屋川環境再生活動の実践（ホテルの光が飛び交う地域を目指して）  
熊本県立芦北高等学校

塩根 優斗

告瀬 瑞基

村岡 亮太  
山本 志門

**熊本労基署との連絡協議会を開催**

【熊本森林管理署】11月17日、当署管内の大矢国有林で実行中の森林整備事業（保育間伐「活用型」）箇所において、

当署、熊本労働基準監督署、請負事業体関係者の27名が参加して、令和2年度の労働基準監督署との連絡協議会を開催しました。

協議会は、下大迫伸一総括森林整備官の司会進行により、川畑充郎署長の開会挨拶、熊本労働基準監督署の澤井泰宏安全衛生課長の挨拶に続いて、



協議会の様子

藤本順也大矢首席森林官が管内・事業地説明、受注者の有限会社中村林業代表取締役より作業方法、安全対策の説明があり、その後参加者全員で作業状況の安全パトロールを実施しました。

安全パトロール終了後、参加者全員でパトロールの結果について意見交換を行うとともに、澤井課長から伐木作業等における労働安全衛生規則の一部改正、高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン等について指導して頂きました。

最後に参加者全員で溝越啓二次長のかけ声に合わせてタッチアンドコール「ゼロ災で行



パトロールの様子

ら、11月11日に鹿兒島、加治木労働基準監督署と鹿兒島、北薩、屋久島森林管理署の3署合同による労働安全衛生確保対策連絡協議会を開催し、請負事業箇所の合同安全パトロール等を実施しました。

当日は、午前中に、霧島山国有林1083林班で実施している治山事業（谷止工）の現場において労基署とパトロールを実施、工事の概要、進捗状況、安全対策について担当より説明

を行い、午後は会場を霧島自治公民館へ移し協議会を行いました。

協議会では、労働基準監督

## 労働安全衛生確保対策 連絡協議会を開催

【鹿兒島森林管理署】当署における請負事業者等の労働安全確保については、発注者の立場から契約時、監督時、安全パトロール時など機会ある毎に労働災害防止等についての注意喚起を行っているところです。

今般、労働災害防止に向けた取り組みを強化する観点か



治山事業現場でのパトロールの様子

この協議会を機に発注者の立場から請負事業者等の災害の未然防止に努めていくことを確認し、労働基準監督署へは引き続き、国有林の労働安全衛生管理について、継続的な指導・支援をお願いしました。



会場を移しての協議会の様子

## 若手職員が署の取組 概要を見事に紹介

【西都児湯森林管理署】西都児湯森林管理署では、署内職員5名の若手職員に人材育成を兼ねて、各事業の取組効果等を広く内外に情報発信するため、令和2年度に入り「事業の見える化」として森林管理署の業務概要を紹介する取組を行うこととしました。

地域技術官の朝田清子「適切な森林整備・保護の実施」、治山技術官の前田悠貴「国土保全と命を守る治山事業」、森林整備官補の新ヶ江颯「木材の安定供給」、森林整備官補の中村凌「公益林としての管理経営」、新規採用の川畑地歩「民国連携の取組」の5取組を各パネルで紹介・掲示しました。

日頃の業務内容から、各職員が関心を持っていることや伝えたいことなどを自由に考え、先輩職員等の意見を聴きながら苦勞を重ねて完成した一枚のパネルとなりました。署のエントランスホールに掲示し、業務内容を見えるかたちで紹介するとともに各種イベント等へも持ち込み掲示しながら、地域に貢献する森林

管理署として取組概要を積極的に紹介し、各パネル毎にプレゼンし更にアピールを行うなど国有林の各事業の必要性・効果等を広く情報発信することで、地域の森林・林業の活性化に繋がれば良いと感じています。

今後の若手職員の一層の活躍を職員みんなで盛り上げ、風通しの良い明るい職場として、引き続き努力を重ねていくこととしています。



エントランスホール掲示の様子

## 収穫研修を開催

【大分森林管理署】11月6日、豊後大野市千歳町に所在する権現尾国有林28林班内におい



冒頭挨拶をする猪島署長

て、本署、各森林事務所職員20名が参加して、令和2年度

収穫研修を実施しました。はじめに、猪島明久大分森林管理署長から「森林が利用期を迎える中、森林の調査は現況を把握するうえで重要な業務です。日頃から森林の蓄積

植生の状況など森林を見る目を養うことが重要であり、本日の収穫研修を機会にさらに身につけて欲しい」と挨拶を述べました。

つづいて、臼杵森林事務所の堀田信広首席森林官から現地の概要の説明があり、高倉邦彦総括森林整備官、廣田光春・嶋徹也主任森林整備官から収穫調査時の注意事項などを説明しました。

その後、4班にグループ分



樹高測定の様子

けしてヘクタール当たりの蓄積を目測、標準地調査、ピットリッピの3つの方法により、森林の蓄積を求めました。調査に際しては、ベテランの先輩が若手職員に樹高の見方、標準地設定のポイントを教示しながら調査を行いました。若い職員からは、ヘクタール当たりの蓄積を求めましたこととなり、今回の研修で学んだことを、これから経験を積んで行くことが大切であると感想を述べました。

【鹿児島森林管理署】11月21日、当署、鹿児島県、(公財)かこしまみどりの基金の主催による「九州森林の日」植樹祭を県立吹上浜海浜公園及び網場国有林で開催しました。この植樹祭は、2008年5月に九州7県及び九州森林管理局が宣言した「九州の森林づくりに関する共同宣言」の行動指針に基づき、九州における「美しい森林づくり」を推進するために、毎年実施

## 「九州森林の日」植樹祭の開催



参加者による植樹の様子

【屋久島森林管理署】11月13日に屋久島町立安房中学校1年生25人に対して小杉谷集落跡において森林教室を開催しました。この森林教室は、安房の学校の生徒たちに小杉谷の植生や歴史等を理解してもらうことを目的に、当署、森林生態系保全センターに要請があったものです。当日は好天に恵まれ、荒川登山口集合後、徒歩で小杉谷に向かいました。小杉谷到着

## 小杉谷で森林教室を開催

しており今年で13回目になります。今回の植樹祭は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じた中での開催となり、鹿児島県環境林務部長、緑の少年団、協賛企業、森林ボランティア団体など約150名の参加がありました。植樹活動では、当署職員による植付方法の説明後、休養の場としての機能や防風・飛砂防備効果が発揮されるようお願いを込め、抵抗性クロマツの苗木1000本を植栽しました。



入山前に「山の神」に参拝

後、山に入る前に小杉谷にある「山の神」に参拝、その後、山部国広自然再生指導官の司会進行により、林友和所長の挨拶後、スタッフ紹介があり、森林教室がスタートしました。まず、山部自然再生指導官と小口桂子職員による「植物観察(葉っぱ探検)」の講義から始まり、一口竜也森林技術指導官による「小杉谷の林業遺産」の講義、屋敷を挟み、宮本和久生態系管理指導官による「小杉谷の歴史」の講義を行いました。その後、生徒達には3班に分かれて、杉小径木の伐倒を体験し、伐倒した杉での丸太切りを体験してもらい、自分で切った杉をプレゼントしました。

また、屋久杉自然館に場所を移し、山部自然再生指導官から「リンゴツバキとツバキギゾウムシ」の話を実物を用いて説明があり森林教室を終りました。

生徒達は、自分たちの住んでいる屋久島で、植物や林業を学び、体験できて、「小杉谷の歴史等が理解できた」「丸太切りが楽しかった」などの感想が聞かれ、職員も生徒達の感想を聞いてとても嬉しく頼もしさを感じた森林教室となりました。

当署と森林生態系保全センターでは、本年度も地元の学校への森林教室を積極的に行い、次世代を担う地元の子供達に屋久島の自然と林業の大切さを伝えていく考えです。



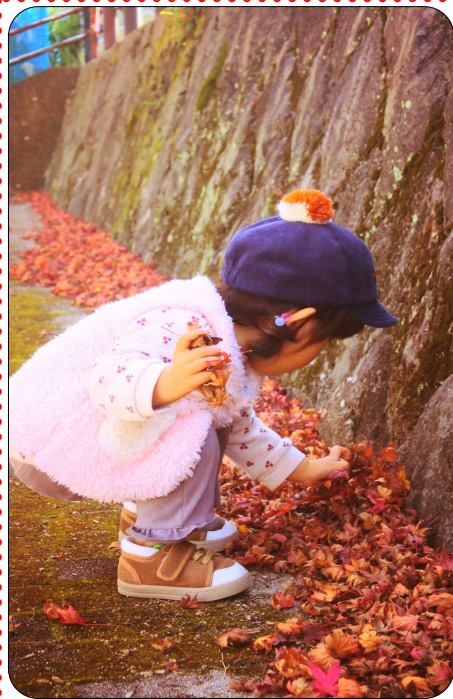
伐倒を体験する生徒の皆さん



# 「森林の恵みを次世代に」

西田 友佳里さん

「ため息のでるような景色：」 テレビや雑誌などで耳にするフレーズだが、心の底から感じるのはここ最近のことである。幼少時から自然に囲まれた環境で育った私は、休日になれば山へくり出し、木の実や木の葉を



拾って遊んでいた。小学校中学年で転校し、自然とは少し離れた街中での暮らしとなった。暮らした中での森の中にあることよりも、買い物をする時や話題の場所へ出かける方が楽しい。

しかし、ちょうど20代後半ごろ、友人の誘いで「九州オルレ」なるものに参加した。ご存知の方も多いたろうが、九州各地に10km前後の距離で歩いて回るコースが設定してあり、街中の風景や自然豊かな山道などを楽しむようになっている。

そして、どこか自然の怖さも感じることもある。季節ごとに変化を見せ、その姿は興味深いものである。

オルレで以前行ったことのある同じコースに行くとき、数年前に来た時にはなかった整備された森林があった。また、九州豪雨災害後は復旧が困難であり、オルレコースの中でも迂回路が設定されたり、整備途中の森を間近に見ることがもあってたりした。

どのコースも魅力的で、街中の風景もいろいろと散策では何だか心がすっきりしてくる。誘われてついだつた私は、オルレに行くことで改めて自然の素晴らしさや木々の輝きに気付かされた。森は全て包んでくれるように優しい。

森を守っている方がいること、整備にはかなりの労力が伴うこと、森林を見つめているものと、感じるものが

あった。「もっと森のことを知って何か行動に移したい」そう思ってモニターに参加させていただいている。私の職業は子どもと接することが多くある。自分の知識・経験やモニターを通しての学びを、将来を担う子どもたちを担う子どもたちの森林へのまなざしに少しでもつなげられたらと思っている。

すっかり森林のとりこになった私は、自分の娘にも樹にまつわる名前をつけた。娘にも森林の奥深さや豊かさを伝えていきたい。

(佐賀県在住)

# 令和2年度高層湿原 保全対策検討会を開催

11月20日鹿児島市内において「令和2年度屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会」を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により宝山ホールをメイン会場として、千葉大学、屋久島の文化村センターと遺産センターを繋いだWEB会議方式としました。この検討会は、日本最南端の高層湿原である花之江河及び小花之江河の状態が急激に変化しつつあることから、湿原の現状及び湿原が形成され



WEB会議の様子

たプロセスを把握した上で実効性の高い保全対策等の検討を行うこととして、平成30年度に設置されたもので、水文学・湿原地質の学識経験者や環境省、林野庁(事務局)、鹿児島県、屋久島町の行政機関等で構成されています。検討会では河邊喬計画課長の開会挨拶の後、令和2年度に実施したモニタリング調査、試行的保全対策等についての中間報告に加えて、令和元年度から収集した水収支モニタリング調査、土壌採取による植物遺体・花粉分析・年代測定等土壌分析調査等の調査成果も報告して議論しました。令和3年度においては、引き続きデータ収集を行うとともに、保全対策の素案の作成に取りかかることとしており、高層湿原の成立や遷移を解明し、現状と問題点などを分析して、適切な保全対策を行うこととしております。

今回の検討結果については、2月10日に開催される第2回屋久島世界遺産地域科学委員会にて報告される予定です。  
(担当：計画課)

# 宮崎南部森林管理署

【宮崎南部森林管理署】11月21日、南那珂農林振興局主催による、令和2年度南那珂地域「水と緑の森林づくり」県民ボランティアの集いin日南がスタートとして参加しました。当日は天候に恵まれ、井上隆裕署長を始め当署職員4名がスタッフとして参加しました。



式典開会の様子

式典では、主催者、宮崎県議会議員、日南市副市長の挨拶等のあと、地元の緑の少年団(北郷小学校4年生2名)による森林づくり宣言を受け、その後来賓者による記念植樹も行われました。森林づくり活動は、参加者全員が3箇所に分かれて草刈作業を行い、青空の下でいい汗を流し、県民ボランティアの集いを終了しました。

なお、家族の参加も多く、県民の森林づくりに対する関心の高まりが感じられる集いとなりました。



記念植樹する井上署長



参加者による草刈りの様子

# 熊本県ノロック市町村長 有志協議会を開催

【熊本森林管理署】11月11日、九州森林管理局大会議室において、国有林が所在する熊本県内の市町村長(担当部課長の代理を含む)、川畑充郎熊本森林管理署長及び赤星良治熊本南部森林管理署長ほか署関係者、小島孝文九州森林管理局長をはじめ局幹部及び関係者、来賓として古賀英雄熊本県農林水産部森林局長を迎え、令和2年度の熊本県ノロック国有林野等所在市町村長有

志協議会を開催しました。  
 会議は白石裕次主任地域林政調整官の司会進行により、副代表世話人である梅田穰山都町長、小島局長、古賀森林局長から挨拶を頂き、梅田町長を座長に議事進行して頂きました。



有志協議会の様子

議事では、九州森林管理局からの情報提供として成瀬昌弘企画調整課長から令和3年度の林野庁関係予算概算要求の概要、森林経営管理制度の取組と森林環境譲与税の活用事例、令和2年度の九州森林管理局重点取組事項、7月豪雨に伴う熊本県芦北地区の治山事業直轄代行、コロナ禍に



挨拶する副代表世話人 梅田山都町長

おける国有林材の供給調整の取組等について、次に森林管理署からの情報提供として川畑署長から熊本・熊本南部森林管理署の令和2年度の重点取組事項と主要事業量について説明しました。

続いて、市町村からの提起・要望事項として事前に頂いていた災害時における市町村と国有林の連携、森林環境譲与税に関する使途・要件や取組事例、林業従事者の担い手確保と低コスト造林について管轄する署長が回答・説明するとともに、意見交換の中では地域林政アドバイザーの後任人材の育成確保が必要、林業担い

手育成のために子供達へ森林・林業に興味を持たせる教育が必要、豪雨災害では瓦礫処理に高性能林業機械が有効等の意見・要望が出され、活発な意見交換を行いました。  
 本年度はコロナ禍に加え令和2年7月豪雨により熊本県内の多くの市町村が被災されていますが、当署及び熊本南部署としては、引き続き関係市町村との連携・協力を深め被災地の復旧と県内の森林・林業・木材産業の活性化に向けて取り組んでいく考えです。

## 地元町内会と合同で不法投棄物を回収

【熊本南部森林管理署】  
 11月11日、人吉市大畑町国道221号沿線及び大畑国有林内においてクリーン活動を実施しました。  
 当日は地元町内会並びに人吉市役所、熊本南部林業土木協会等の協力を得て、総勢47名で不法投棄物の回収を行いました。  
 作業の開始に当たり大畑町内会会長より「今年は、コロナと七月豪雨の影響により開催できなかったことに非常にうれしく思う。多くの方々に参加をいただき感謝申し上げます」との挨拶の後、各班に別れ作業を開始しました。



回収されたゴミを軽トラに積み込む様子

作業箇所は人吉市からえびの市に抜けるループ橋周辺で、車から投げ捨てたと思われるゴミや、国道から入り込んだ箇所には粗大ゴミ等も捨てられており、足場の悪い中、苦勞しながら道路までの引き上げ作業に当たっていました。回収されたゴミは可燃ゴミ290キロ、不燃ゴミ350キロの計640キロにもなり、昨年を上回る量となりました。  
 当署としても人吉市、



粗大ゴミ回収の様子

地元町内会と不法投棄防止について連携を図りながら引き続き取り組みを進めていくこととしています。



冒頭挨拶する大畑町内会長

# 屋久島木材 フェスタに参加

【屋久島森林管理署】10月31日、屋久島町みどりの推進協議会、熊毛流域森林・林業活性化センターの主催により、屋久島町役場本町フオーラム棟で「屋久島木材フェスタ」が開催され、「木を見て！触れて！遊んで！木の魅力を見直そう！」を目的に掲げ、当署を始め、県、木材関係団体が参加し、各ブースに分かれて木工クラフト体験や木製品の販売等いろいろな催しを行いました。



木工体験コーナーの様子

当日は天候にも恵まれ、大勢の家族連れや観光客で賑わい、当署のブースも多くの子供達が訪れて、職員の手導を受けながらモックンや竹とんぼを作ったり、また、作った竹とんぼを楽しそうに飛ばしていました。

また、外来種の有効利用を目的として



アブラギリを使用したスツール(両側のみ使用)

の木工体験のコーナーに、一口竜也森林技術指導官、林結実森林整備官補、志村康介技官、土井貴博技官の4名が参加し、モックンや竹とんぼ等の作成指導等を行いました。

当署が木工芸社に提供したアブラギリを、3社がスツール、時計、ローリースケートの木製品に加工し展示を行い、アブラギリの良さをPRしました。

熊毛流域森林・林業活性化センターでは、屋久島の木材がPRできたとして、次年度以降も10月の「木づかい推進月間」にフェスタを行うこととしています。

## 九州最大の風力発電所 串間市で竣工式を開催

【宮崎南部森林管理署】串間ウインドヒル株式会社(代表取締役社長水町豊)が、20



竣工式の様子

16年9月から建設を進めていた串間風力発電所の竣工式が2020年11月18日に、市長、議員、地元及び当署署長等の関係者47名参加により開催されました。

当発電所は、2012年に黒仁田国有林2067林班外南北約5kmに風力発電施設23基(国有林7基)計画の相談が当署にあり、連絡道の整備や、貸付を行い、7年かけて準備してきました。

開所式では、神官による祝詞(のりと)のあと、参加した全員で今後の繁栄と安全を祈願しました。

当施設の総出力は6万4800kW年間1億3700万kW(一般家庭の4万6千世帯分)の電力を補え、九州最大の風力発電所となっています。

風車は、高さ136.5mで、1基あたりの出力は2850kW24時間自動運転で、風速3メートル以上になると発電を開始し、年間約5万トンの二酸化炭素(CO2)削減効果が見込めるとしています。

全量を九州電力送配電に売電し、年間約30億円の売り上げが見込まれます。

国有林としても、再生可能エネルギーの活用場として貸付を行うことなど、地域の要望に応えられるよう適切な対応に努めて参ります。





# 男女群島の巡視を実施

【長崎森林管理署】11月12日、長崎森林管理署の管轄である男女群島の巡視を委託事業により実施し、当署職員のほか、局計画課職員と、環境省職員が同行しました。

男女群島は五島列島の福江島から南西へ約70km離れた東シナ海に位置している国境の島です。絶海の孤島であるため荒波で削られた断崖絶壁の



ヘリポートから見た女島

この巡視業務は地理的な問題から年1回の実施となっており、土地の無断使用及びゴミの不法投棄の防止等を目的として行っています。洋上から島全体を一周するように島の現況を確認し、女島においては上陸後、女島灯台や貸付地の確認を行いました。当日は天候に恵まれ、九州本土から遠く離れた外洋にもかかわらず、風・波ともに穏やかで、国境の島として重要な巡視業務を無事に終えることができました。

無人島で、1番大きな男島を含む5つの島からなっています。そのほとんどが国有林で、アコウ等の亜熱帯性植物が自生していることから、暖帯性広葉樹の植物学考証のため島全体が生物群集保護林に設定されています。

また、魚つき、航行目標保安林として重要な役割を果たしているほか、固有の自然状態が評価され、1969年に全島が史跡名勝天然記念物（天然保護区域）に指定されています。

今後も年1回ではありますが、定期的な巡視等を実施し、国有林として適正な管理を行っていきます。



西側海上から見た女島と女島灯台

## 一ツ葉の森林で民・国合同でイベントを開催

【宮崎森林管理署】11月8日、宮崎市内の一ツ葉海岸林周辺において、当署主催の「民・国合同の一斉清掃」を実施しました。

この取組は、毎年、宮崎県下一斉に行われている清掃活動「クリーンアップ宮崎」の開催に合わせ実施しているもので、本年も、関係行政機関、林業事業体、地元企業等から



一斉清掃に参加された皆さん

は、前浜国有林に設定している「連合宮崎ふれあいの森」に於いて、連合宮崎による森林整備活動への指導協力を行いました。

この取組は、連合宮崎の協力依頼に応え毎年実施しているもので、54名の参加者が混み合ったマツ林の間伐作業を行いました。作業後は、利用者等にとって、より親しみやすい景観となったことは勿論、今後のマツの良好な成長が期待されます。快晴の下、一ツ葉の森林に参加者の清々しい笑顔があふれる一日となりました。

52名が参加しました。

当日は、晴天にも恵まれ、海岸林に投げ捨てられたペットボトル等のゴミを拾い、一時間ほどでゴミ袋をいっぱいにして戻ってくる参加者も多く見られました。

この取組は、ゴミの不法投棄や環境汚染について、民・国一体となって考える貴重な機会であり、今後も活動を継続し、地域住民へ不法投棄防止を呼びかけ、海岸林の環境保全に努めていく考えです。

また、一斉清掃終了後



「連合宮崎ふれあいの森」での森林整備活動の様子

## クリスマス用の モミの木を贈呈

【大分西部森林管理署】11月26日、日田市のフレールベル学園三芳幼稚園にクリスマスツリー用のモミの木（高さ約4m）を贈呈しました。モミの木は、山国森林事務所部内から採取したもので、当日は6名の職員が園に届けました。職員が運動場から屋内に運び込むと180人近い園児か



飾り付けが終わったモミ木

園児たちはさっそく枝に色とりどりの飾りを行い、元気で可愛い歌とダンスの披露があった後、園長先生から丁寧な挨拶を頂き、園児たちの盛大な拍手での見送りを受け園を後にしました。私たちも園児の皆さんの明るい笑顔と心のもった感謝状を

らの盛大な拍手と歓声があがりました。階段下のフロアにモミの木を設置後、モミの木を囲み「もみの木会」のセレモニーが始まり、先生から当署の仕事についてご紹介がありました。園児たちの代表からモミの木の御礼として手作りの感謝状とシクラメンが職員に贈呈され、森本明次長から「サンタさんから良い子でいる三芳幼稚園にモミの木を運んで下さい」というお手紙頂きました。いっぱいモミの木に飾り付けをして素敵なクリスマスを迎えてください」と返礼の挨拶を行いました。

園児たちはさっそく枝に色とりどりの飾りを行い、元気で可愛い歌とダンスの披露があった後、園長先生から丁寧な挨拶を頂き、園児たちの盛大な拍手での見送りを受け園を後にしました。私たちも園児の皆さんの明るい笑顔と心のもった感謝状を



お礼に手作りの感謝状とシクラメンをいただきました

励みとして、お仕事を頑張りたいと思います。（モミの木の贈呈は同園が1967年に開園した当初から続く行事で、毎年、地元マスコミの取材もあり、当署では恒例となっております。）

★ ★ ★  
かんしゃしよう

すてきなもみのきを ありがとうございます。かざりをつけて、すてきなクリスマスをすごします。これからもおからだにきをつけて おしごとをがんばってください。れいわ2ねん11がつ26にちみよしようちえん

## 吹上浜松くい虫伐倒駆除 作業技術研修会を開催

【鹿児島森林管理署】吹上浜松林保全対策連絡協議会では、吹上浜における松くい虫被害の拡大を受け、防除事業に携わる全関係者が現状の共有と認識の統一を図ることを目的に、連絡協議会の構成員である森林管理署・鹿児島県・関係3自治体・かごしま森林組合、また薬剤メーカーや九州森林管理局から松くい虫担当も参加し、約80名の出席者による「吹上浜松くい虫伐倒駆除作業技術研修会」を実施しました。



松くい虫被害のメカニズム等について学ぶ

日置市中央公民館で行われた室内研修では、南薩地域振興局より「吹上浜における松くい虫被害の状況」について説明があった後、鹿児島県森林技術総合センターの川口研究専門員より「松くい虫被害のメカニズム・駆除対策」について講義がありました。次に現場研修では、入来浜の堀川国有林に場所を移し、薬剤メーカーによる薬剤の使用法と燻蒸効果を高めるための注意点など実技を含めた説明があり、実務者であるかごしま森林組合の職員がメーカーの指導を仰ぎながら燻蒸処理を行いました。



薬剤の使用法等の研修の様子

# 2020年を振り返って いろいろな出来事がありました

九州森林管理局では、九州地域における林業の成長産業化の実現に向け様々な取り組みを行っています。ここでは、2020年の出来事をこれまでの「広報九州」で振り返ってみたいました。

## 局長交代



4月1日付けで原田隆行前局長が北海道森林管理局局長に、後任に小島孝文前東北森林管理局局長が就任しました。  
(令和2年4月号に掲載)

## 東北森林管理局職員が誘導伐 (一貫作業システム)視察

多面的機能発揮で健全な森林づくりのため、九州森林管理局が取組んでいる誘導伐の現状について、東北森林管理局管内の職員（8名）が2月17日から3日間の日程で来局され、現地研修や意見交換会等が実施されました。今後、東北局と情報を共有して森林整備のトータルコスト低減に取り組むこととしました。



(令和2年3月号に掲載)

## シカ被害対策 協定を締結

今年も新たに、2月に福岡森林管理署・篠栗町・糟屋郡狹友会篠栗支部の三者協定を7月に西都児湯森林管理署・川南町・川南町有害鳥獣対策協議会による三者協定を締結しました。



(令和2年4月号・8月号に掲載)

## 林野災害時における森林情報の共有に関する協定を締結

林野災害時における被害状況など森林情報を共有することにより、山地災害等への迅速な対応を通じて地域の安全性の向上を図ることを目的として、福岡森林管理署・福岡県による林野災害時における森林情報の共有に関する協定を締結しました。



(令和2年4月号に掲載)

## ゴイシツバメシジミの 保護・増殖の更なる強化

熊本森林管理署と山都町の二者による「ゴイシツバメシジミ」の保護・増殖に係る連携と協力に関する協定」を締結。これまで以上に連携・協力して取り組みます。

(令和2年7月号に掲載)

## 新たな保護林設定に向け 森林基礎調査始まる！

宮崎南部森林管理署で、2箇所目となる保護林設定に向け、自動撮影カメラとコウモリトラップの設置するなど森林基礎調査が始まりました。



(令和2年8月号に掲載)

# 芦北地区特定民有林 直轄治山対策室を開設

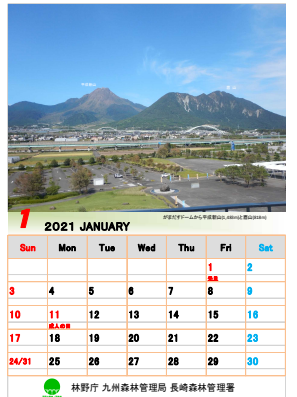
7月の豪雨災害で被災した熊本県芦北地域の県管理の治山施設や林地の復旧を国の直轄代行として実施するため、熊本県芦北地域振興局内に、10月1日、「芦北地区特定民有林直轄治山対策室」を開設しました。



(令和2年11月号に掲載)

# カレンダーが出来ました

長崎森林管理署では、今年も職員が撮影した写真を使って作成した「2021年カレンダー」を作成し、署のホームページで公開しています。



# 都会の中の憩いの森 監物台樹木園の 多様な植物

ムラサキシキブは、北海道南部から本州、四国、九州に分布し、高さ3m前後の落葉低木です。両生花で冬芽は裸芽です。



裸芽とは、そのまま葉に成長する芽のことを言います。ムラサキシキブの判別は葉に毛がないこととして教えられましたが、実際にはわずかに細毛があります。また集散花序が多く、散房に咲いてい

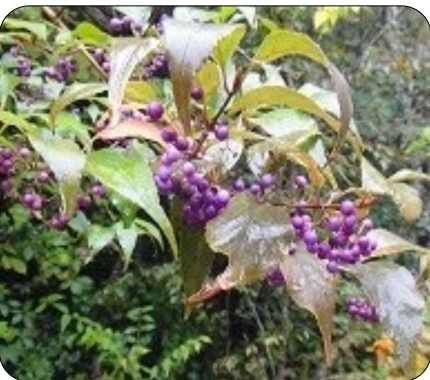


ることや花冠の毛の少ないことも特徴です。庭に植えられているコムラサキとの判別は、本種には葉の縁全部に鋸歯があり、コムラサキには半分しか鋸歯がないことです。名前が優美な紫色の果実を、才媛、紫式部の名を借りて美化してつけられたそうですが、果実をむかひは、ムラサキシキミといい、その転化だとの説もあります。

# 157 ムラサキシキブ(タマシヅ科)

オオムラサキシキブも暖かい地方で普通に観察できますが、沖縄地方のムラサキシキブは全部オオムラサキシキブ(琉球植物誌)だそうです。ムラサキシキブの冬にテカテカ光っている果実を観察すると感激します。

森林インストラクター  
安楽 行雄



# 人のうごき

芦北治山事業所駐在  
三浦英泰【北海道局後志署  
治山技術官】  
(担当〓総務課)



今年7月の豪雨災害により人吉球磨地方及び八代芦北地方は甚大な被害を与えた。一刻も早い復旧・復興を願うとともに、できる限りの支援を行いたいと思う▼高校2年時に、学校近くの乙千屋川が氾濫し、授業中だったが、あつという間に冠水し、車や農業科の豚が何頭か流されていたことを思い出した。夕方には、水は引いたのだが、国道やJRは通行不能となったので、同級生の家に泊まり、翌日に約30km歩いて帰ったのを思い出した。被害は今ほど大きくなかったと思うが、グラウンドは使えなくなり、11月まで水泳の授業があり唇が紫色になりながらも泳いでいた。(泳がされていた?) 当時は今のように温暖化という言葉を使ったこともなかった時代であり、今では考えられないことだ▼今年の森林・林業の技術交流発表大会は、新型コロナ対策を講じることから、初めてオンライン形式での開催となった▼高校生の部では、7月の豪雨災害により被災した南稜高校や芦北高校も参加があり、見事に最優秀賞、優秀賞を受賞した。高校生の発表は全て地域の再生がテーマであった。地域に根ざした活動(貢献)。まさに原点。地域に愛される国有林であった。(普)

# 感染リスクが高まる「5つの場面」に注意し、 感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫を!

## 感染リスクが高まる「5つの場面」に注意しよう!

### 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に数居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



### 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



### 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中中でも注意が必要。



### 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



### 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



~~大声~~・~~大人数~~・~~長時間~~



感染リスクが高まる「5つの場面」 URL  
<https://corona.go.jp/proposal/>  
 ← 詳しくはこちら!! (内閣官房HP)

## 感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫を実践しよう!

- 飲酒をするなら、①少人数・短時間で  
 ②なるべく普段一緒にいる人と  
 ③適度な酒量で 楽しもう!

- 会話する時はマスク着用!
- 箸やコップは使い回さない!
- 席は斜めに座ろう!
- ガイドラインを守る店を選ぼう!



- 体調が悪い人は参加しない!



